

<経歴>

ふじもと・けいじ/昭和33年高知県安芸市生まれ。昭和62年関西医科大学医学部卒業後、関西医科大学医学部整形外科、八尾徳州会総合病院、阪和病院にて勤務。ニューヨーク州立大学バッファロー校留学のち、関西医科大学整形外科助手を経て、平成11年3月フジモト整形外科を開業。



<Data>
医療法人コスモス会 フジモト整形外科/
大阪市北区天神橋6-5-7 天六ビル3F
市営地下鉄天神橋筋六丁目駅より徒歩1分
JR天満駅より徒歩5分
http://fujimoto-seikei.jp

予防医学から介護支援まで—骨粗鬆症治療の前後過程もサポートしています。

保存的治療で患者さんと長く付き合うことも開業医としての大事な務め

整形外科医となって約10年、特に開業を目指していたわけではないのですが、今後の進路をそろそろ考えるという時期に、たまたま眼科医である妻が開業している診療所ビルの1フロアが空き、これも何かのきっかけと考え、開業を決心しました。ただ、開業するまでは毎日のように手術をしていましたので、手術をしなくなることに対しては、当初は戸惑いもありました。

開業して間もなく、歩くのもやっとという状態の重症の変形性膝関節症で、手術を勧めても「死んでも手術は嫌だ」と言い続ける患者さんと出会いました。何度手術を勧めても拒否されるので、その度に、医療における手術の位置づけや、患者さんの価値観などについて考えさせられました。そして、そういう方に手術のメリットを伝え、安心して手術を受けてもらい、QOLを上げることも医者としての務めであるが、保存的治療で経過を見ながら長く付き合っていくことも開業医としての大事な務めだと思ふようになりました。

できるだけ患者さんの話によく耳を傾け、その人の考え方を聞き、いかに保存的に楽にするかを考え、漢方や鍼灸といった東洋医学も取り入れながら、さまざまな方法で疼痛除去に努めています。単に病気を診るのではなく、その患者さんを診て、その方とのつながりを大事にしています。



従来の概念にとらわれず、上手くカラーコーディネートされたリハビリ室。鍼灸治療を含め、患者さんの症状や希望に合わせたさまざまな「痛み」を取るための治療を行っている。

骨折予防のためにはトータルケアが必要

勤務医時代は手術がメインで、骨粗鬆症にはあまり関心はありませんでした。ところが、開業後、圧迫骨折を次々起こして寝たきりとなり、認知症が進行してしまうという患者さんを経験し、骨折予防がいかに大切かということを実感するようになり、骨粗鬆症に興味を持ち始めました。

ですから現在は、腰や背中での痛みを訴える患者さんにX線所見で骨粗鬆症が認められたら、すぐに骨密度を測定して、基



準に達していなければ治療を開始しています。その際、患者さんの状態や年齢などを考慮し、エビデンスに基づいて薬剤を選択しています。骨粗鬆症において疼痛除去は非常に意義がありますから、明らかに骨量が低下していて、圧迫骨折を起こしている、もしくは明らかな骨折はないものの、骨粗鬆症からくる疼痛と思われる方にはエルシトニンを投与しています。骨粗鬆症による圧迫骨折があって疼痛を伴う方にエルシトニンを投与すると、患者さんはその効果を実感されますから、きちんと治療を継続されます。また、患者さんにも



受付は低めのカウンターで開放的。スタッフの方々にもより声をかけやすい雰囲気を感じられる。院内にはグリーンや生花が過所に置かれ、患者さんの視覚的な癒しにも配慮されている。

よりますが、注射時の痛みによって「治療を受けている」という感じがするらしく、治療に前向きになるような精神的なメリットもあるようです。

骨粗鬆症診療において重要なのは、やはり骨折予防です。ですから、注射薬を含めた投薬だけでなく、日常生活における転倒予防の指導、食事療法、運動療法などをいかにコーディネートできるかが重要であり、トータルケアが必要だと思ひます。

アンチエイジングにも取り組む

単に痛みを訴える方の疼痛除去だけでなく、痛みが進行し動けなくなった方をいかに介護するか、また、痛くなる前にいかに予防するか、ということも大切だと考え、治療に加え、介護や予防医学であるアンチエイジングにも力を入れ始めました。アンチエイジングは全診療科に及びますが、なかでも整形外科領域には加齢性変化による疾患が多く、たとえば変形性膝関節症など膝痛を訴える方の多くは肥満ですから、膝の治療だけでなく、減量が必要となります。しかし、なかなか自分ではコントロールできませんから、そういう方には併設の健康サポート外来で、食事、運動、サプリメントも含め、トータルな健康指導を提案していきたいと考えています。

健康サポート外来の流れ

